文部科学省委託事業
令和 7 年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」
『地域中小企業と連携による IT 担当者育成・採用促進モデル開発と普及推進事業』

連携高校・学校体験会
開発 PBL 体験実証講座
アンケート調査報告書

学校法人 YIC 学院

目次

1.事業の趣旨 ……1

2.アンケート調査の目的 ……1

3.高校生地域中小企業説明会 ……1

3－1.説明会概要と告知状況 ……1
3－2.アンケート調査項目 ……2
3－3.当日案内方法 ……3
3－4.PBL 体験授業ワークショップの様子 ……4

4.開発 PBL 体験実証講座アンケート結果 （高校生向け） 5

4－1.アンケート実施概要 ……5
4－2.アンケート結果 ……5

5.開発 PBL 体験実証講座個別ヒアリング （高校生向け）18

5－1.ヒアリング実施概要 ……18
5－2.ヒアリング結果 ……18

6.付録：資料 …… 22

6－1.アンケート調査票 ……22

7.PBL 授業体験ワークショップ …… 26

7－1.PBL 授業体験ワークショップ概要 ……26
7－2.教材及びシナリオ ……29
7－3.担当教員所感 ……43

8.総評 …… 46

1.事業の趣旨

IT 関連製品・サービスを提供する IT ベンダーやユーザ企業の情報システム部門で活躍する IT 人材が 2030 年には 45 万人不足するとの試算がある中、働き盛りの若者人口が少ない地方都市では、コロナ禍後の経済活動活発化に伴い人材不足が深刻化している。産業活性化・人口減少対策として、魅力ある働き先としての企業誘致に力を入れるため、誘致企業にとって大きな魅力となる人材採用・育成のための地域密着型職業教育機関との連携は不可欠である。

本事業では、以上のような地域ニーズに応えるため、中小企業で働くために必要とされる「汎用的かつ多様な能力・スキルを強みとし、協働的な働き方で ICT 技術を駆使して積極的に課題解決に取り組める人材」を育成することを目指す。

2.アンケート調査の目的

この調査は、地域中小企業と連携による IT 担当者育成・採用促進モデル開発と普及推進事業において、新学科カリキュラムの調査・普及を目的とする。連携高校や学校体験会において PBL 授業体験ワークショップを実施する。PBL 体験実証を通じて高校生が主体的に学び、企業や地域社会との繋がりを深める機会の創出し、併せて本事業の新学科へ求められるニーズ、シーズ、カリキュラムの魅力をアンケートから抽出する。

3.高校生地域中小企業説明会

3－1.説明会概要と告知状況

（1）調査手法

PBL 授業体験ワークショップ終了後、Google フォームにてアンケート調査を実施した。

（2）調査対象

PBL 授業体験ワークショップ参加者。

（3）アンケート実施（内訳）

対象…… 山口県内の高校生

合計…… 15 名

回答数 …… 15 件

（4）調査日程

令和 7 年 12 月 6 日（土）

令和 7 年 12 月 13 日（土）

（5）回収結果

有効回答数 **15** 件（有効回収率 **100%**）

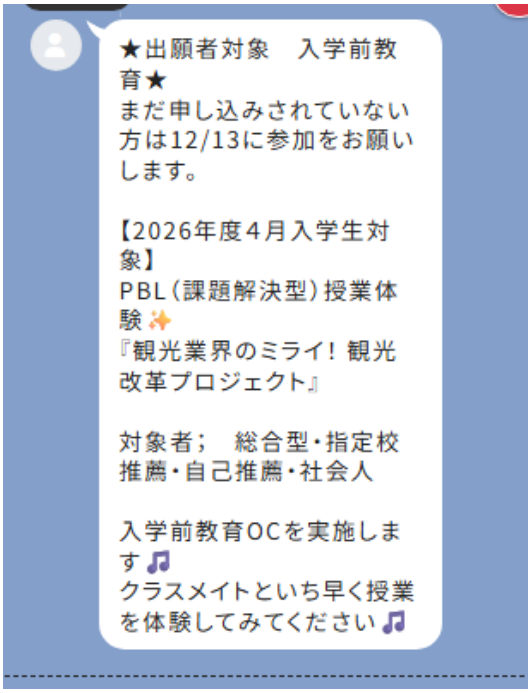
3－2.アンケート調査項目

基礎情報
①学年 ②進路希望
地域就職意識
③将来、地元（地域）で進学・就職について ④地元企業のイメージ ⑤就職先を選ぶときに重視する点
IT分野・学科への関心
⑥IT分野（PBL・データ分析・マーケティング・アプリ開発・AIなど）への興味 ⑦ITに関する学びや経験 ⑧IT関する内容で学んでみたいこと ⑨IT分野を学習する必要性
PBL 授業体験ワークショップ参加の意識変化
⑩PBL授業体験ワークショップ体験前に、地域の企業と一緒に学ぶことへの印象 ⑪PBL授業体験ワークショップに参加してみて、この授業への興味 ⑫PBL授業体験ワークショップ体験中に積極的に発言などできたか ⑬解決するために、自分で工夫したことや、考えたこと ⑭PBL授業体験ワークショップで分からなかったことやもっと体験したかったこと

3－3.当日案内方法

LINE 登録済高校生へメッセージにて案内、および HP に掲載。

(1)高校生向け案内



(2)高校生向け案内 LINE



3－4.PBL 体験授業ワークショップの様子













4.開発 PBL 体験実証講座アンケート結果（高校生向け）

4－1.アンケート実施概要

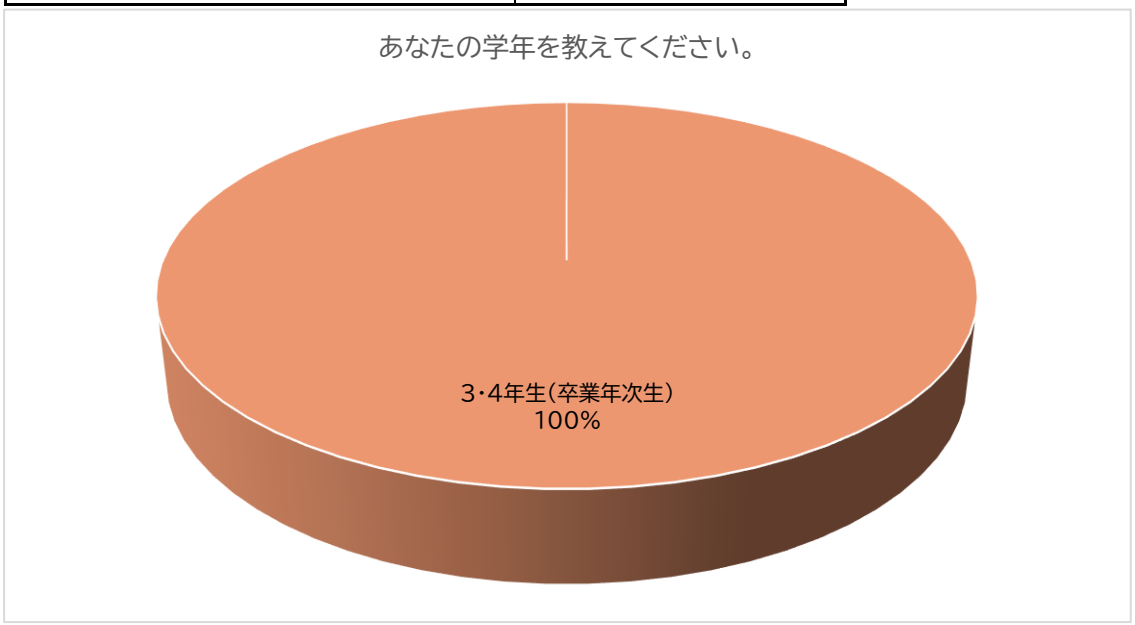
PBL 授業体験ワークショップへの参加者を対象に講座の理解度や関心を確認するンケート調査を実施した。本講座は、地方創生のデータ分析ツール「RESAS（地域経済分析システム）」を活用し、高校生が地域（観光業）の現状と課題をデータから理解し、解決策を考えることで、「データ活用×課題解決型学習（PBL）」を体験することを目的とする。また、本校が推進する「調査・普及事業」における PBL 体験モデルの実証とし、高校生の地域理解・進学意欲・職業観形成に繋げることを目指す。

4－2.アンケート結果

～基本情報～

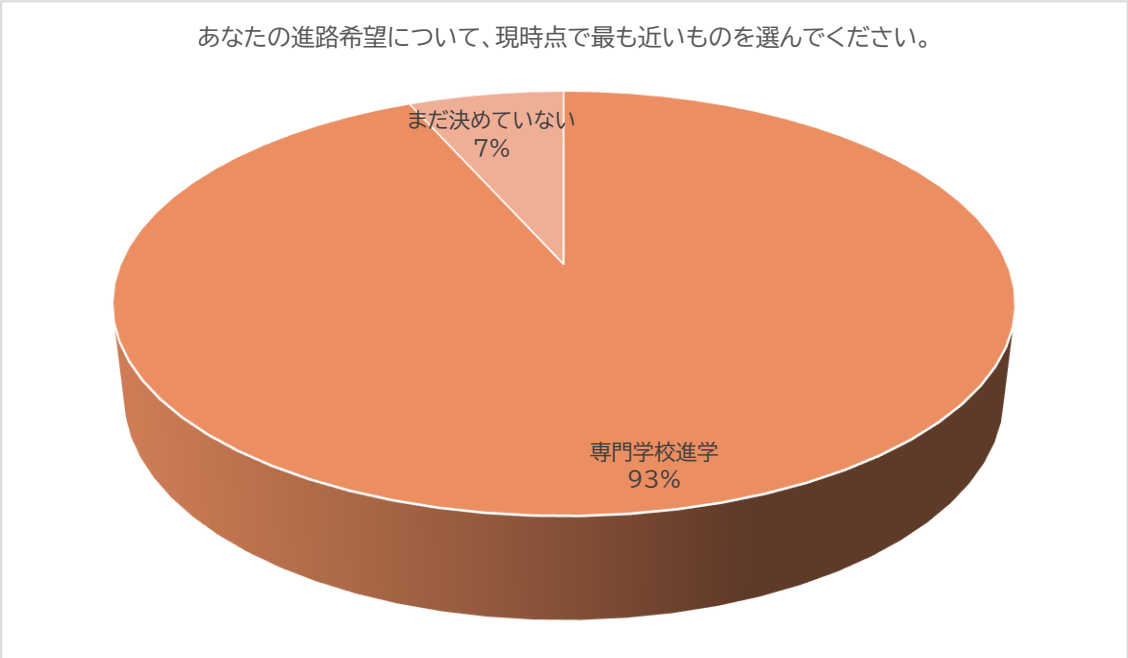
【問 1】あなたの学年を教えてください。

1 年生（初年度生）	0
2 年生（中間生）	0
3・4 年生（卒業年次生）	15
未回答	0



【問 2】あなたの進路希望について、現時点で最も近いものを選んでください。

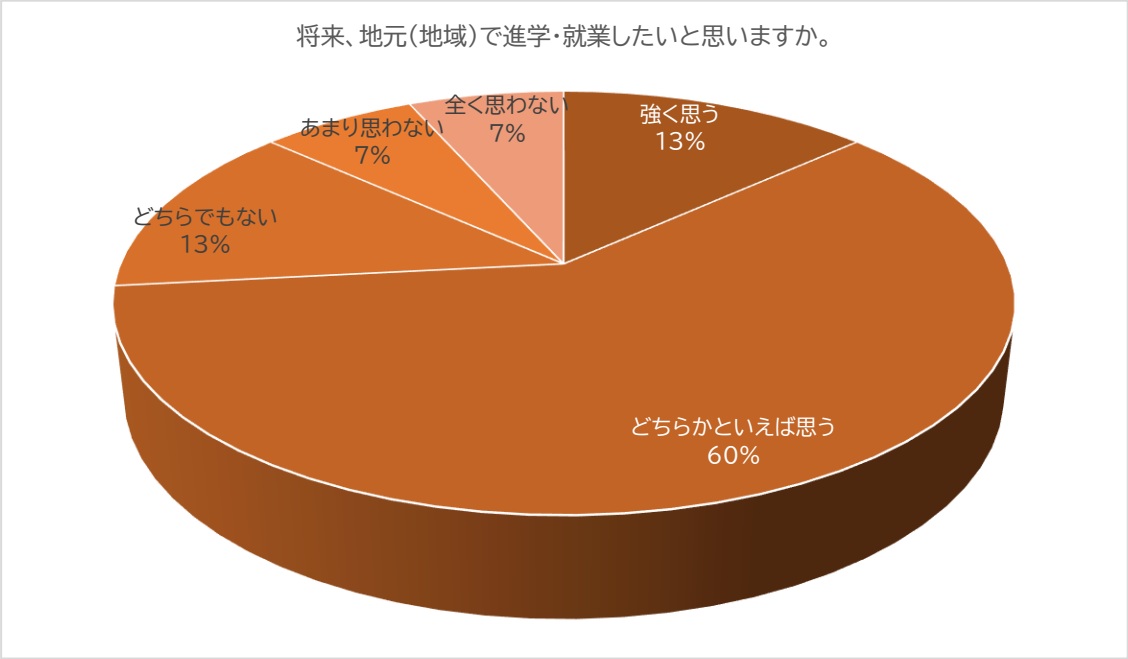
就職	0
大学進学	0
短大進学	0
専門学校進学	14
まだ決めていない	1
未回答	0



～地域就業意識について～

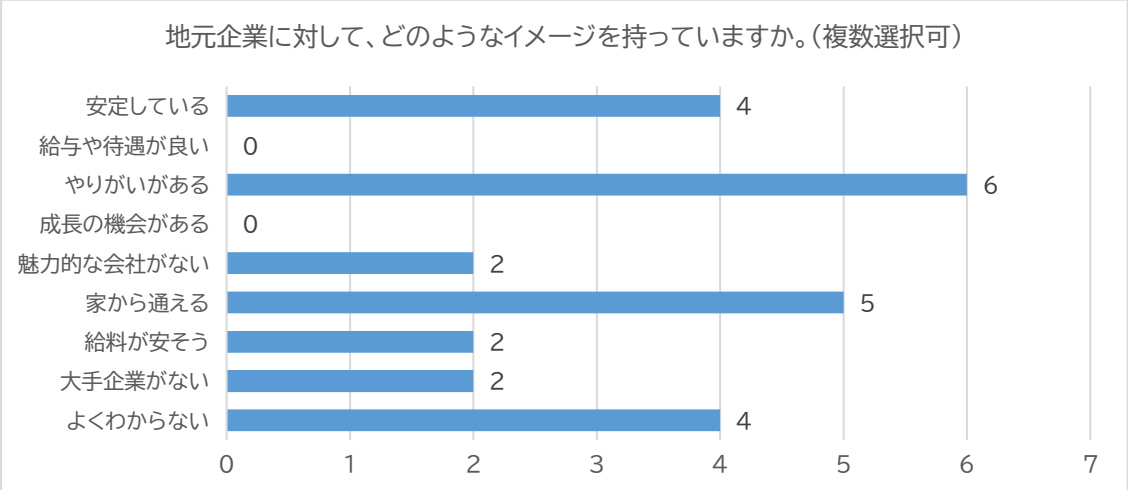
【問 3】将来、地元(地域)で進学・就業したいと思いますか。

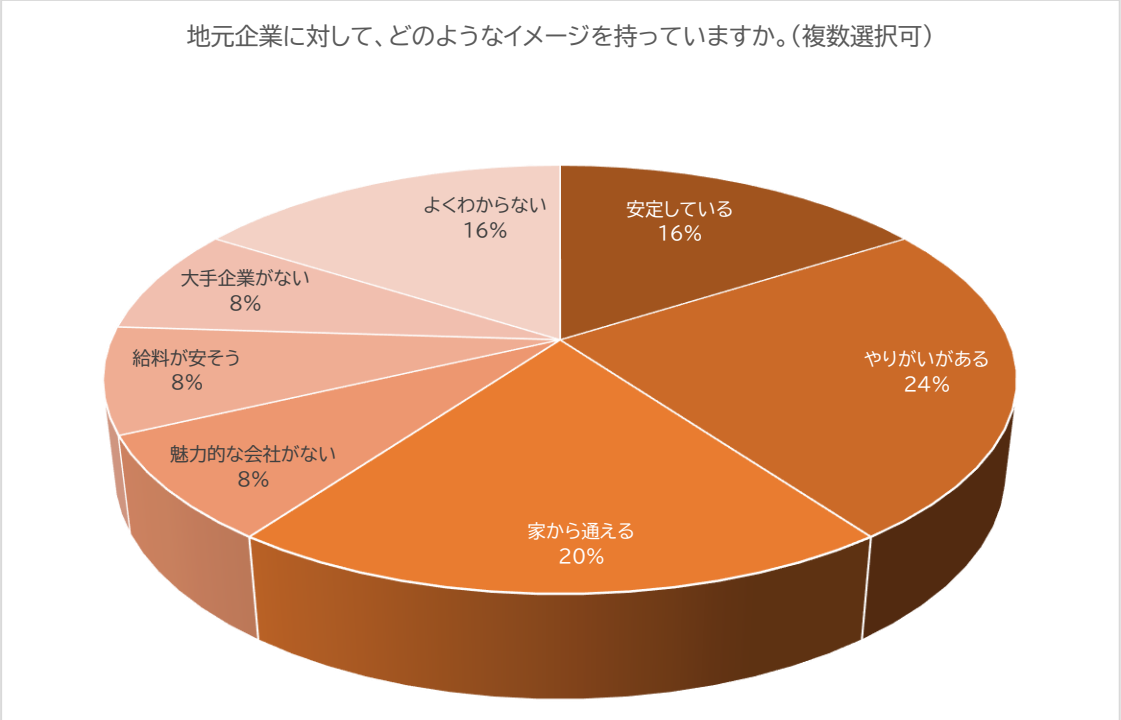
強く思う	2
どちらかといえば思う	9
どちらでもない	2
あまり思わない	1
全く思わない	1
まだ決めていない	0
未回答	0



【問 4】地元企業に対して、どのようなイメージを持っていますか。(複数選択可)

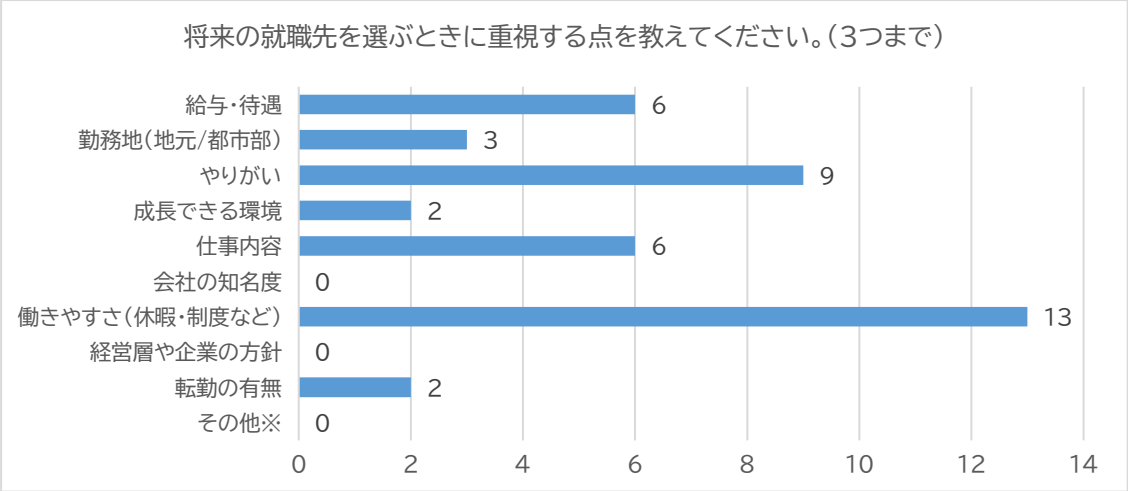
安定している	4
給与や待遇が良い	0
やりがいがある	6
成長の機会がある	0
魅力的な会社がない	2
家から通える	5
給料が安そう	2
大手企業がない	2
よくわからない	4
未回答	0

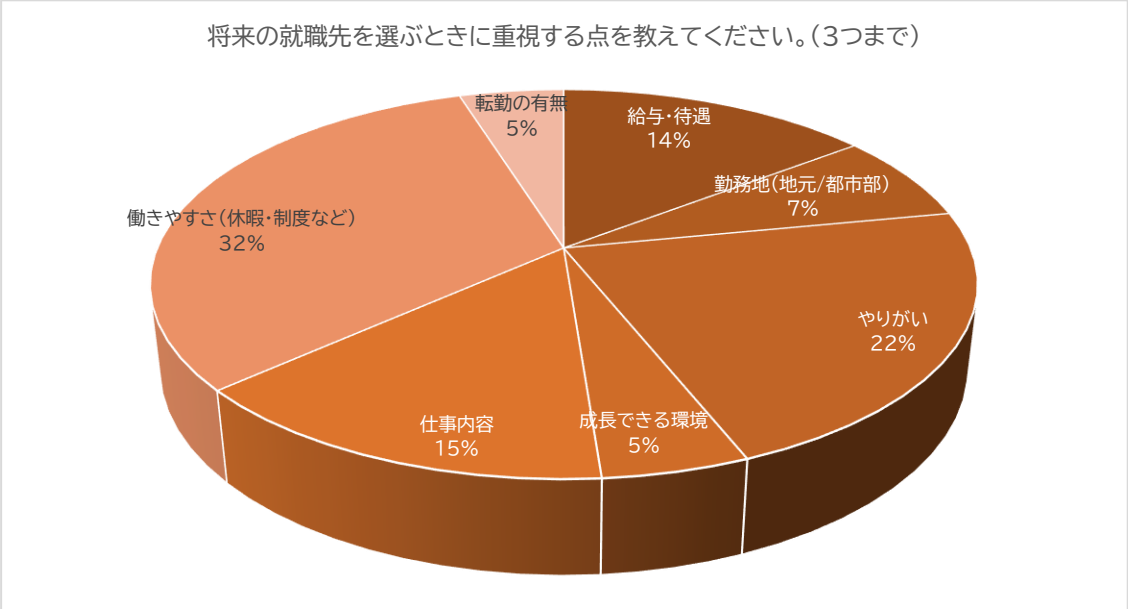




【問 5】将来の就職先を選ぶときに重視する点を教えてください。(3 つまで)

給与・待遇	6
勤務地(地元/都市部)	3
やりがい	9
成長できる環境	2
仕事内容	6
会社の知名度	0
働きやすさ(休暇・制度など)	13
経営層や企業の方針	0
転勤の有無	2
その他※	0
未回答	0

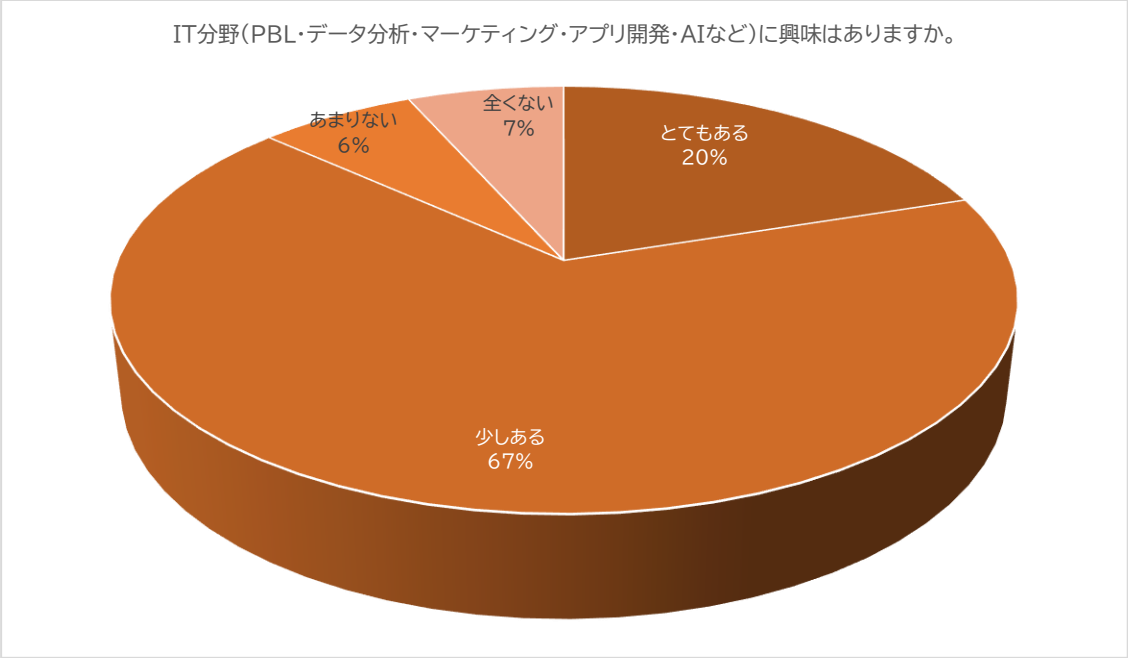




～IT 分野・学科への関心～

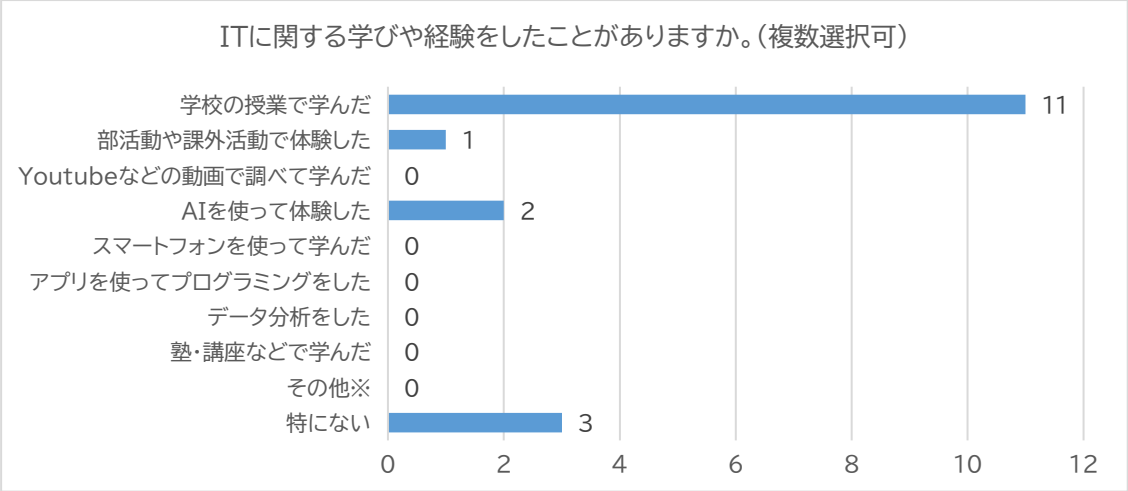
【問 6】IT 分野（PBL・データ分析・マーケティング・アプリ開発・AI など）に興味はありますか。

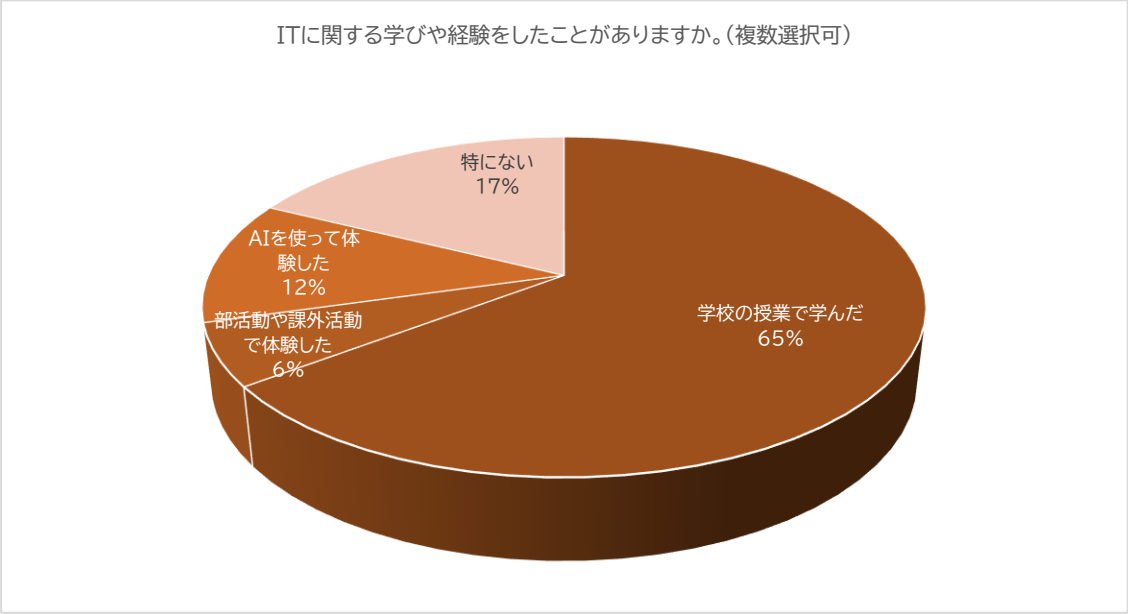
とてもある	3
少しある	10
あまりない	1
全くない	1
未回答	0



【問 7】IT に関する学びや経験をしたことがありますか。(複数選択可)

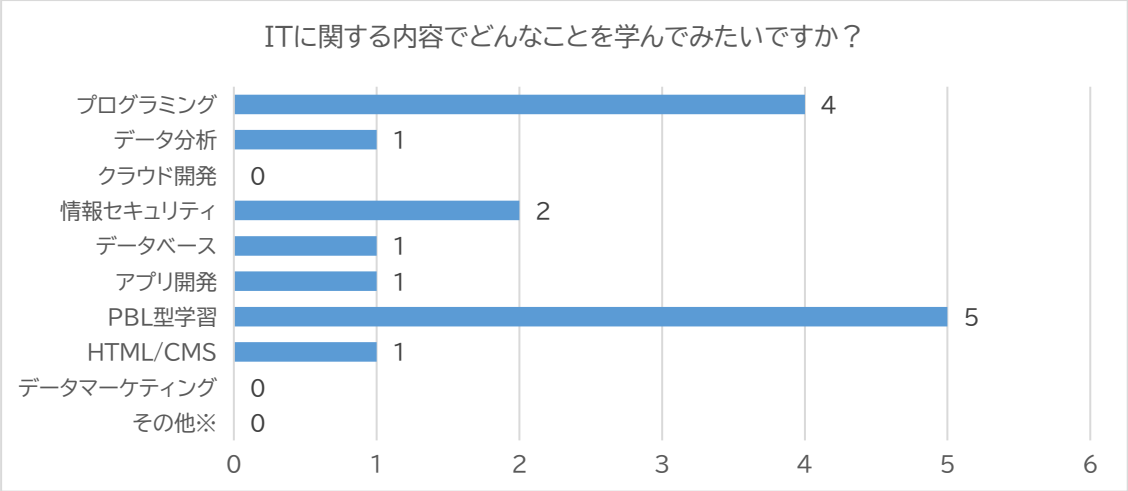
学校の授業で学んだ	11
部活動や課外活動で体験した	1
Youtube などの動画で調べて学んだ	0
AI を使って体験した	2
スマートフォンを使って学んだ	0
アプリを使ってプログラミングをした	0
データ分析をした	0
塾・講座などで学んだ	0
その他※	0
特にない	3
未回答	0

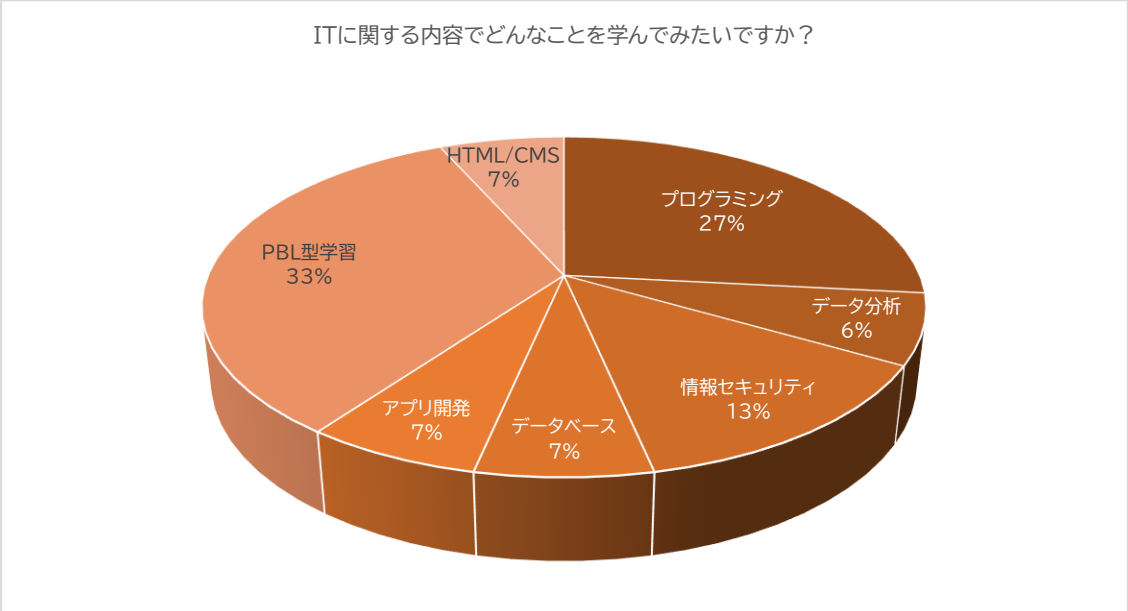




【問 8】IT に関する内容でどんなことを学んでみたいですか？

プログラミング	4
データ分析	1
クラウド開発	0
情報セキュリティ	2
データベース	1
アプリ開発	1
PBL 型学習	5
HTML/CMS	1
データマーケティング	0
その他※	0
未回答	0





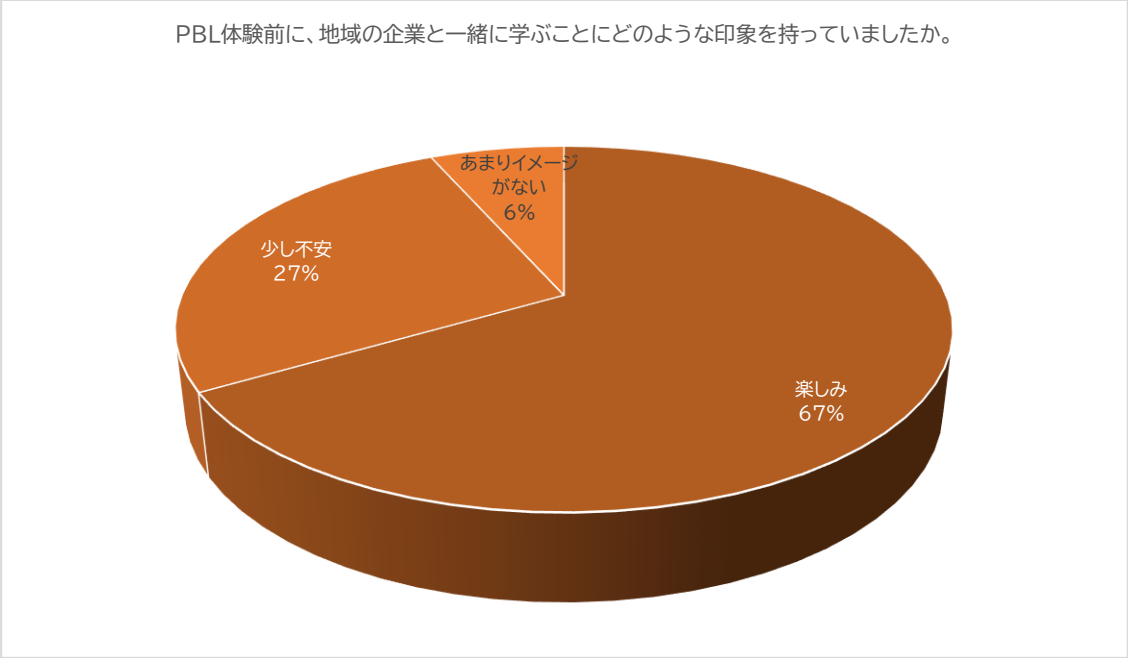
【問 9】IT を学ぶことで、将来どのように役立つと思いますか。（自由記述）

・IT を学ぶことで仕事に活躍できると思う
・仕事に役立てる
・なんでも調べられる。
・地域発展などデータを使ってできることがたくさんあると思った
・IT を学ぶことで、将来難しいことでも IT を使えば少しでも問題を解決していけると思います。
・この先で情報をもとに課題を見つけるという点で役に立つと思う
・間違った情報に惑わされにくくなる
・どのようにしたら企業が発展するかなどデータ分析で活用できると思う。
・パソコンに強くなるも思います
・人手不足という言葉をよく耳にする中で効率よく仕事をしていく中で役に立って行くと思います。
・人手不足の解消につながる。
・色々な人が楽しく遊べるようなアプリや生活などに活用できるアプリが作れる
・就職先の幅が増えたり、生活において便利なことが増えると思います。
・情報の信憑性がわかりやすくなる。

～PBL（課題解決型学習）体験前後の意識変化～

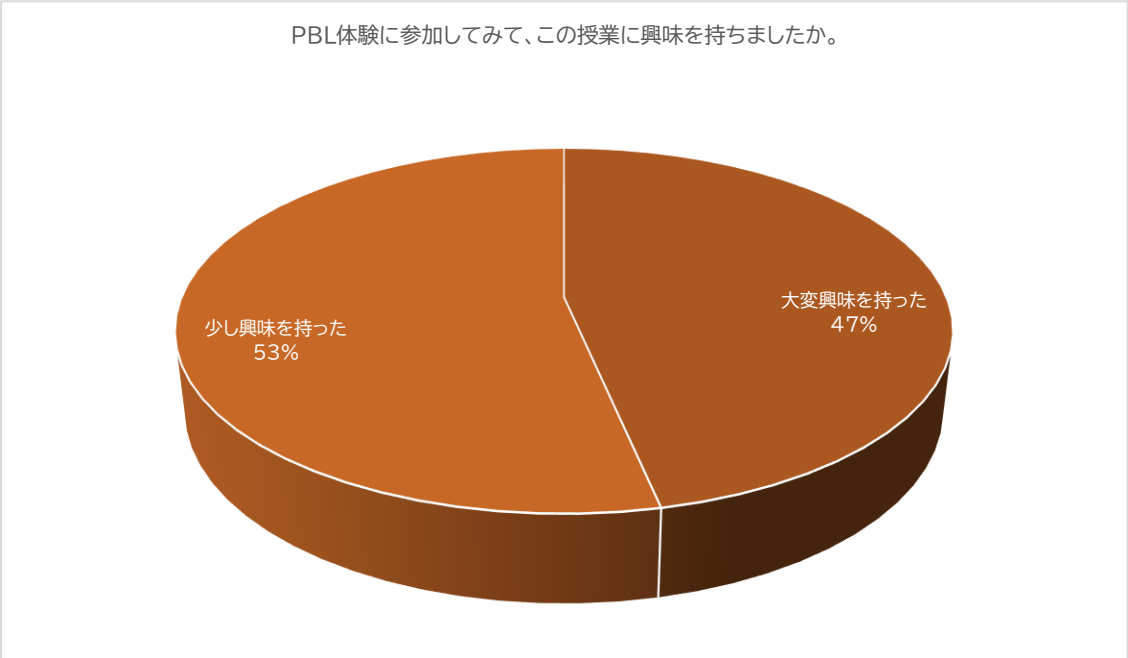
【問 10】PBL 体験前に、地域の企業と一緒に学ぶことにどのような印象を持っていましたか。

楽しみ	10
少し不安	4
あまりイメージがない	1
興味がない	0
未回答	0



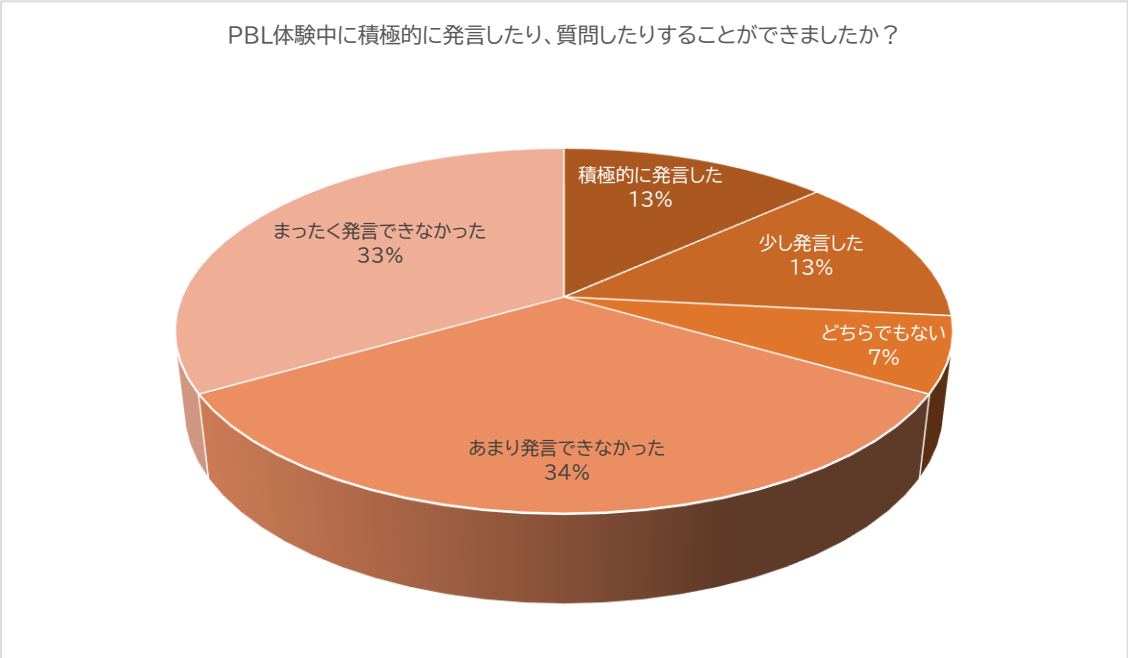
【問 11】PBL 体験に参加してみて、この授業に興味を持ちましたか。

大変興味を持った	7
少し興味を持った	8
どちらでもない	0
あまり興味を持たなかった	0
まったく興味を持たなかった	0
未回答	0



【問 12】PBL 体験中に積極的に発言したり、質問したりすることができましたか？

積極的に発言した	2
少し発言した	2
どちらでもない	1
あまり発言できなかった	5
まったく発言できなかった	5
未回答	0



【問 13】解決するために、自分で工夫したことや、考えたことはありますか？（自由記述）

・分かりません。
・疑問を増やす
・緊張しないようにした。
・データを見比べる
・自分からたくさんのことを調べたり挑戦したりした。
・モデルコースを作ってツアーを行う
・自分の知ってることを思い出す
・自分の考えを主張する。
・なぜ山口県には観光客が少ないのか
・データを見て最近の政治事情などを思い出したりしてました
・特になし
・考えたことは無いが世の中大変なことが分かったのでこれから考えていきたい
・特にないです。
・考えたことがなかったので、この体験を通して考えてみたいと思いました。

【問 14】PBI 体験で、わからなかったことやもっと体験してみたかったことは何ですか。（自由記述）

・特にないです。
・もっと色んな事を知りたいと思った
・山口県について考える
・たくさんのデータをみたいと思った
・もっとこういう授業を体験してみたいと思いました。
・もうすこし話し合いやグループワークをしてみたかった
・resas をもっと使ってみたいと思った
・特になし。
・緊張して隣の人と話せなかったのでもっとお話してみたかったです。
・もっと RESAS を使ってみたいです
・リーサス体験が面白かった。
・無し
・もっと積極的に話したり、自分の意見を言えたら良かったと思います。
・会話が苦手でも大丈夫か不安です。

5.開発 PBL 体験実証講座個別ヒアリング（高校生向け）

5－1.ヒアリング実施概要

学校名	学科	学年	希望コース
山口中村学園高校	普通科	3 年	情報デザイン科　メディアデザインコース
サビエル高校	普通科	3年	ビジネス科　ホテル観光ブライダルコース
長府高校	総合学科	3年	ビジネス科　ホテル観光ブライダルコース

5－2.ヒアリング結果

【問 1】 進路先の学科・コースを教えてください。

・情報デザイン科　メディアデザインコース
・ビジネス科　ホテル観光ブライダルコース
・ビジネス科　ホテル観光ブライダルコース

【問 2】 性別を教えてください。

・女性
・女性
・女性

【問 3】 現在の進路について、率直な気持ちを教えてください。

・決まっている
・決まっている
・不安がある

【問 4】 進路を考える際、誰の意見が一番影響していますか。

・自分自身
・自分自身
・家族（保護者）

【問 5】【問 4】の回答の理由を教えてください。

・自分で考えるべきことだから。
・行きたいところじゃないとやる気が出ないと思ったから
・信じられるから

【問 6】「地元で進学・就職したい／したくない」と思うようになったきっかけは何ですか。（経験・話を聞いた相手・イメージなど）

・地元以外のとこだと家事、学校、仕事全部を両立させるのが難しそうだから。
・地元の方が安心できるから
・迷ってます

【問 7】 地元企業について、具体的に思い浮かぶ企業や仕事はありますか。

・特に思いつかない
・特に思いつかない
・特に思いつかない

【問 8】 具体的に思いつく、企業名や職種を教えてください。

【問 9】 もし「地元で働く」選択をするとしたら、どんな条件があれば前向きになれますか。（例：給与、やりがい、成長、働き方、雰囲気など）

・やりがいがあって、働きやすい。
・やりがい、働き方、雰囲気
・いじめがない、語学力を生かせる（やりがい）、休暇がある

【問 10】IT 分野に対して、正直にどんな印象を持っていますか。（難しそう/面白そう/自分に向いていそう・いなさそう 等）

・最初は難しそうだけど慣れてきたら楽しそう。
・難しそう
・難しそう

【問 11】IT やデータ、AI などを学ぶことについて、不安に感じる点は何ですか。（複数あればすべて）

・機械音痴なので授業についていけるかが心配。
・難しそう
・機械オンチだから変なことしそう

【問 12】「これならやってみたい」と思える IT の学び方があれば教えてください。

・ゲーム・アプリ制作
・チームで話し合いながら進める
・実際の企業課題に取り組む

【問 13】PBL 体験の中で「印象に残っている場面」を具体的に教えてください。（楽しかった/難しかった/戸惑った瞬間など）

・話が難しすぎて何がなんなのかよく分からなかった。
・楽しかった
・難しかった

【問 14】その場面で、自分自身はどのように考え、行動しましたか。

・聞くのが精一杯だった。
・自分の考えをなるべく多く出した
・みんなで話し合った

【問 15】PBL 体験を通して、自分について新しく気づいたことはありますか。（得意・苦手、考え方の変化など）

・PBL は苦手だということが分かった。
・自分の住んでいる県についての考え方
・情報に基づく根拠が何事もだいじなこと

【問 16】PBL 体験がなかった場合と比べて、進路の考え方はどう違っていたと思いますか。

・何も変わらない。
・分からない
・わからない

【問 17】今回の体験を通じて、今後やってみたいことは何ですか。（学び・進路・行動など）

・みんなについていけるよう学んでいきたい。
・進路
・地域貢献

【問 18】同じような講座があった場合、どんな内容なら「また参加したい」と思いますか。

・PBL 以外も学びたい
・ブライダル系
・観光の課題を見つけて議論してみたいです

6.付録：資料

6－1.アンケート調査票

●高校生向けアンケート

＜基本情報について＞

【問 1】　あなたの学年を教えてください。

1. 1年生（初年度生）
2. 2年生（中間生）
3. 3・4 年生（卒業年次生）

【問 2】　あなたの進路希望について、現時点で最も近いものを選んでください。

1. 就職
2. 大学進学
3. 短大進学
4. 専門学校進学
5. まだ決めていない

＜地域就職意識について＞

【問 3】　将来、地元（地域）で進学・就職したいと思いますか。

1. 強く思う
2. どちらかといえば思う
3. どちらでもない
4. あまり思わない
5. 全く思わない
6. まだ決めていない

【問 4】　地元企業に対して、どのようなイメージを持っていますか（複数選択可）

1. 安定している
2. 給与や待遇が良い
3. やりがいがある
4. 成長の機会がある
5. 魅力的な会社がない
6. 家から通える
7. 給料が安そう
8. 大手企業がない
9. よくわからない

【問 5】 将来の就職先を選ぶときに重視する点を教えてください。(3 つまで)

1. 給与・待遇
2. 勤務地(地元／都市部)
3. やりがい
4. 成長できる環境
5. 仕事内容
6. 会社の知名度
7. 働きやすさ(休暇・制度など)
8. 経営層や企業の方針
9. 転勤の有無
10. その他

＜IT 分野・学科への関心について＞

【問 6】 IT 分野(PBL・データ分析・マーケティング・アプリ開発・AI など)に興味はありますか。

1. とてもある
2. 少しある
3. あまりない
4. 全くない

【問 7】 IT に関する学びや経験をしたことがありますか。(複数選択可)

1. 学校の授業で学んだ
2. 部活動や課外活動で体験した
3. Youtube などの動画で調べて学んだ
4. AI を使って体験した
5. スマートフォンを使って学んだ
6. アプリを使ってプログラミングをした
7. データ分析をした
8. 塾・講座などで学んだ
9. その他
10. 特にない

【問 8】 IT に関する内容でどんなことを学んでみたいですか？

1. プログラミング
2. データ分析
3. クラウド開発
4. 情報セキュリティ
5. データベース
6. アプリ開発
7. PBL 型学習
8. HTML／CMS
9. データマーケティング
10. その他

【問 9】 IT を学ぶことで、将来どのように役立つと思いますか。（自由記述）

＜PBL（課題解決型学習）体験前後の意識変化について＞

【問 10】 PBL 体験前に、地域の企業と一緒に学ぶことにどのような印象を持っていましたか。

1. 楽しみ
2. 少し不安
3. あまりイメージがない
4. 興味がない

【問 11】 PBL 体験に参加してみて、この授業に興味を持ちましたか。

1. 大変興味を持った
2. 少し興味を持った
3. どちらでもない
4. あまり興味を持たなかった
5. まったく興味を持たなかった

【問 12】 PBL 体験中に積極的に発言したり、質問したりすることができましたか？

1. 積極的に発言した
2. 少し発言した
3. どちらでもない
4. あまり発言できなかった
5. まったく発言できなかった

【問 13】 解決するために、自分で工夫したことや、考えたことはありますか？（自由記述式）

【問 14】 PBL 体験で、わからなかったことやもっと体験してみたかったことは何ですか。
（自由記述）

7.PBL 授業体験ワークショップ

PBL 授業体験ワークショップの概要を示すとともに、講座に参加した学生の反応や就職先となる企業からの要望等を踏まえ、担当教員にヒアリングした結果をまとめる。

7－1.PBL 授業体験ワークショップ概要

1. 目的

本講座は、地方創生のデータ分析ツール「RESAS（地域経済分析システム）」を活用し、高校生が地域（観光業）の現状と課題をデータから理解し、解決策を考えることで、「データ活用×課題解決型学習（PBL）」を体験することを目的とする。また、本校が推進する「調査・普及事業」における PBL 体験モデルの実証とし、高校生の地域理解・進学意欲・職業観形成に繋げる。

2. 実施概要

実施日	①2025 年 12 月 6 日（土） ②2025 年 12 月 13 日（土）
対象	YIC 情報ビジネス専門学校 入学予定者（入学前研修（任意）） オープンキャンパス参加高校生
実施時間	90 分（講義＋PBL ワーク）
会場	YIC 情報ビジネス専門学校（PC 室）
担当	講座教員：2 名 協力：観光業界企業、観光コンベンション協会
使用ツール	RESAS、Google スライド、Google フォーム（アンケート）
参加人数	各回 約 15～20 名

3. 講座構成（90 分）

時間	内容	形式	担当
10:30～	オリエンテーション・テーマ説明「観光業界の今と課題」	講義	教員
10:40～	RESAS 操作体験① ― 山口県・観光入込客データの見方	実習	サポーター
10:55～	グループ分析「データで見る観光客数の変化」	PBL ワーク	協力企業
11:25～	課題発見と仮説づくり「観光業の課題をデータで説明する」	グループ討議	協力企業
11:40～	解決策プレゼン（1 グループ 3 分）	発表	各班代表
11:55～	振り返り・アンケート（Google フォーム）	記入	教員

4. 学習到達目標

・データを活用して地域課題を分析する力を養う
・チームで協働し、観光業の課題と解決策を考える経験を得る
・専門学校での学びの実践的側面を理解し、進学意欲を高める

5. 成果物・評価

成果物	アンケート結果報告書
評価方法	・講座満足度（5 段階）
	・理解度（事後アンケート）
	・地域課題への関心度変化（クロス集計）
分析担当	調査・普及委員会（結果は次回委員会にて報告・反映）

6. 安全・運営体制

・事前に PC・ネットワーク環境確認
・サポート学生 2 名を配置（操作・発表支援）
・個人情報（アンケートデータ）は集計後匿名化して保存

7. 今後の活用・普及

・当日の成果スライド・アンケート結果をまとめ、「調査・普及委員会報告書」および「事業成果報告書」に掲載予定
・同内容を連携高校での出張講座として展開予定（2026 年 4 月）

8. 参考資料

〇RESAS 公式サイト：https://resas.go.jp
〇参照項目：「連携高校・学校体験会 開発 PBL 体験実証講座」

調査名①	連携高校・学校体験会 開発PBL 体験実証講座（アンケート調査）
調査目的	地域中小企業と連携によるIT 担当者育成・採用促進モデル開発と普及推進事業において、新学科カリキュラムの調査・普及を目的とする。連携高校や学校体験会においてPBL 授業体験ワークショップを実施する。PBL 体験実証を通じて高校生が主体的に学び、企業や地域社会との繋がりを深める機会の創出し、併せて本事業の新学科へ求められるニーズ、シーズ、カリキュラムの魅力をアンケートから抽出する。
調査対象	高校教員・高校生
調査手法	アンケート調査
調査項目	・実施前の地域進学や就職に対する関心度・イメージ ・開発カリキュラムに対する期待 ・PBL 一部体験を通じた学習成果 ・実施後の地域進学・就職への関心度・イメージの変化
分析内容	・PBL に対する認知・関心度・イメージの集計

（集計項目）	・開発カリキュラムへの理解度の集計 ・PBL 後に自身が感じた学習成果（非認知能力）の集計 ・高校生のキャリア目標と教育内容の関連性分析 ・地域貢献と自身のキャリアで大切にすることのクロス分析
構築しようとしているモデルの検討にどのように反映するか	活用手法） ① 学科の人材育成像とカリキュラムが伝わるイメージとそこに期待される教育的効果 ② 開発カリキュラムの改善 ③ 普及活動への改善

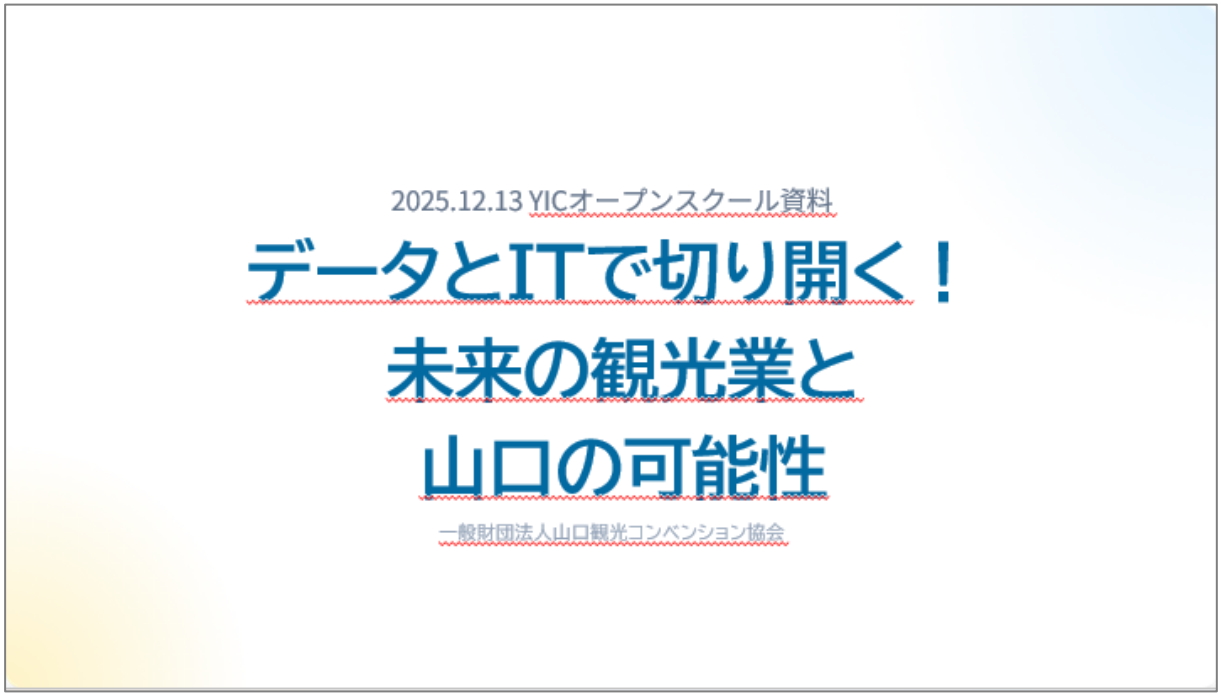
7－2.教材及びシナリオ

データと IT で切り開く！未来の観光業と山口の可能性　　（想定時間：約 12 分）

話し手：［あなたの名前］

対象：高校生

【導入：アイスブレイク】（1 分 00 秒）



（スライド 1 表示：タイトル）

皆さん、こんにちは！今日はお休みのところ、このオープンキャンパスに来てくれてありがとうございます。

まず、いきなり本題に入る前に、ちょっと皆さんに質問です。
「最近、旅行に行きましたか？」
（少し間を取る）
…行きましたよね！国内でも海外でもいいんですが、旅行に行く時、皆さんは行き先について、どうやって調べますか？
昔なら「旅行雑誌」とか「ガイドブック」でした。
でも今はどうでしょう？ スマホで「インスタグラム」を開いて、「＃角島大橋」とか「＃元乃隅神社」って検索しますよね？ あるいは「TikTok」でショート動画を見て、「ここ行きたい！」ってなる。
そう、皆さんの旅行は、もう雑誌ではなく、「データと IT」によって始まっているんです。
今日は、そんな皆さんの身近な「観光」というテーマで、

1. 日本の観光が今どうなっているのか

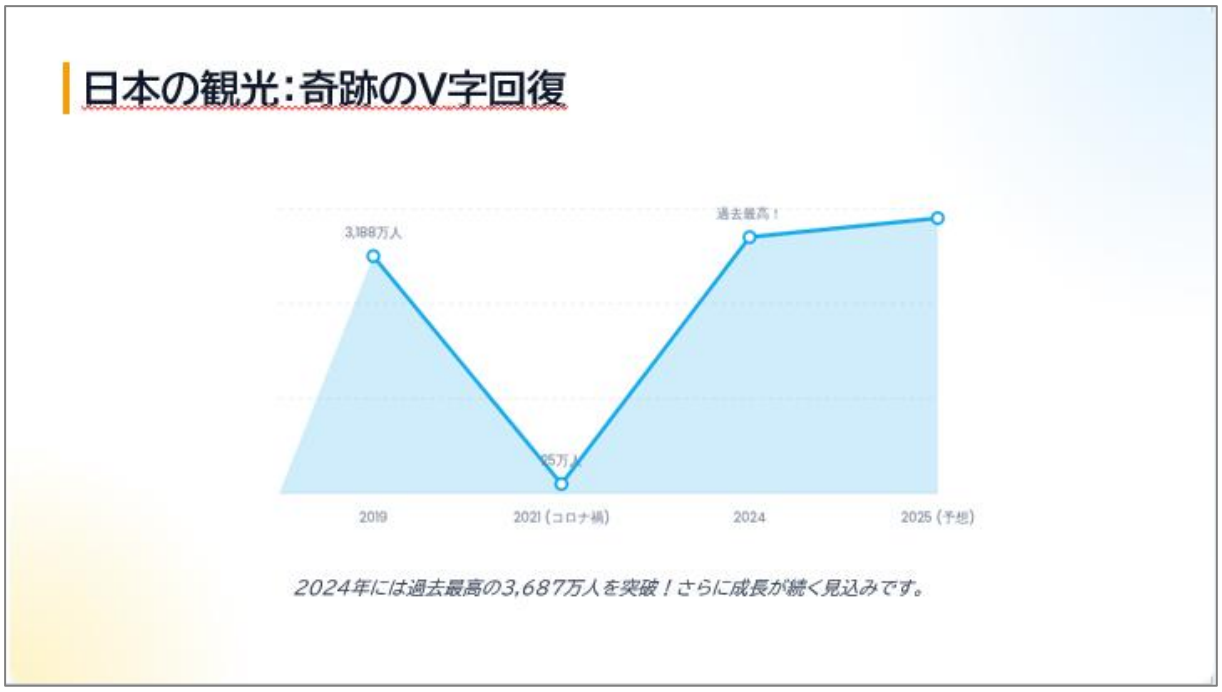
2. 地元山口県にどんな可能性があるのか
3. そして、皆さんが将来学ぶかもしれない「IT」が、この観光業をどう変えるのか
   という話をしていきたいと思います。最後までお付き合いください！

【Section 1：日本の観光の現状】（2 分 30 秒）



（スライド 2 表示：日本の観光、今どうなってる？）

まず、日本の観光全体の状況を見てみましょう。特に皆さんに関係が深いのが「インバウンド」、つまり海外から日本に来る外国人観光客です。



（スライド 3 表示：絶好調のインバウンド）

データを見ると、すごいことになってるのがわかります。

- 2019 年、コロナの前は **3,188 万人**。過去最高でした。
- それがコロナ禍の 2021 年には、たった **25 万人**に激減しました。ほぼゼロです。観光業界は本当に大変でした。
- ところが、2024 年には V 字回復どころか、一気に過去最高の **3,687 万人**を突破しました！もう止まりません。2025 年には **4,000 万人**を超えると予想されています。

これは、観光業が単なる「お楽しみ」じゃなくなってきたことを意味します。



（スライド 4 表示：日本の「基幹産業」としての観光）

2024 年の外国人観光客の消費額は、なんと 8.1 兆円です。

これ、日本の輸出産業の中で、自動車に次いで第 2 位の規模なんですよ！　すごくないですか？

国も「2030 年までに 15 兆円にしよう！」と目標を立てています。

観光は、これからの日本を支える超・成長産業なんです。

【Section 2:山口県の可能性と課題】(3 分 30 秒)



(スライド 5 表示:じゃあ、山口県は?)

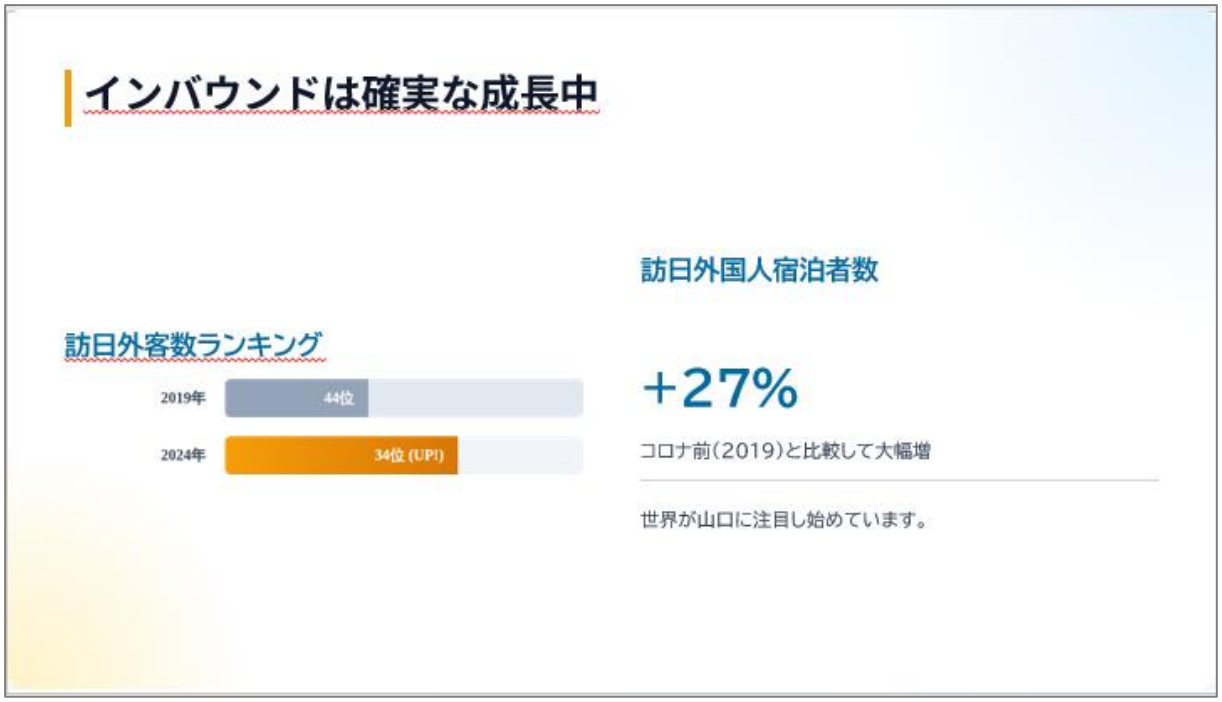
じゃあ、私たちの地元、山口県はどうでしょう?

山口県には、写真にあるような絶景の角島大橋、SNS で人気の元乃隅神社、歴史的な街並みの萩など、素晴らしい観光資源がたくさんあります。

コロナ禍から回復し、観光客数も戻ってきていますが、実はまだ課題があります。

訪問客の約 8 割が、県内か、お隣の中国・九州地方の人なんです。つまり、全国や海外から来る人の割合がまだまだ全然低い。

裏を返せば、「伸びしろ」がめちゃくちゃあるということです。



（スライド 6 表示：山口県のインバウンド：確実な成長）

しかし、確実に良くなっているデータもあります。
外国人観光客が日本に来る「訪日外客数」の都道府県ランキングで、山口県は 2019 年のほぼ最下位の全国 44 位から、2024 年には 34 位にグッと順位を上げました。10 ランクアップです！
さらに、外国人観光客の宿泊者数は、コロナ前の 2019 年から 2024 年で 27%も増加しています。

（雑談・余談：NY タイムズ）

ここで一つ、皆さんが「山口ってすごい！」って思える話を。
実は、県庁所在地である山口市が、2024 年にニューヨーク・タイムズ紙という世界的な新聞で、「世界で行くべき 52 カ所」の第 3 位に選ばれたんです。
選ばれた理由は、「西の京」と言われる美しい歴史的な街並み。特に国宝の瑠璃光寺五重塔が、混雑していない穴場として世界に発信されました。



（スライド 7 表示：山口市の「強み」と「悩み」）

世界から注目され始めたのは大きなチャンスです。これが「強み」。

でも、その一方で「悩み」もあります。



（スライド 8 表示：山口市の「悩み」（課題））

山口市の課題は主に 3 つ。

1. **通過型の観光：** 瑠璃光寺だけ見て、はい、おしまい。滞在時間が短い。
2. **周遊性の課題：** 湯田温泉に泊まっても、萩、角島の方へ行ってしまい、市内の他のエリアに足を運んでもらえていない。
3. **二次交通アクセス：** 空港から市街地への直通バスがないなど、観光客が動きにくい。

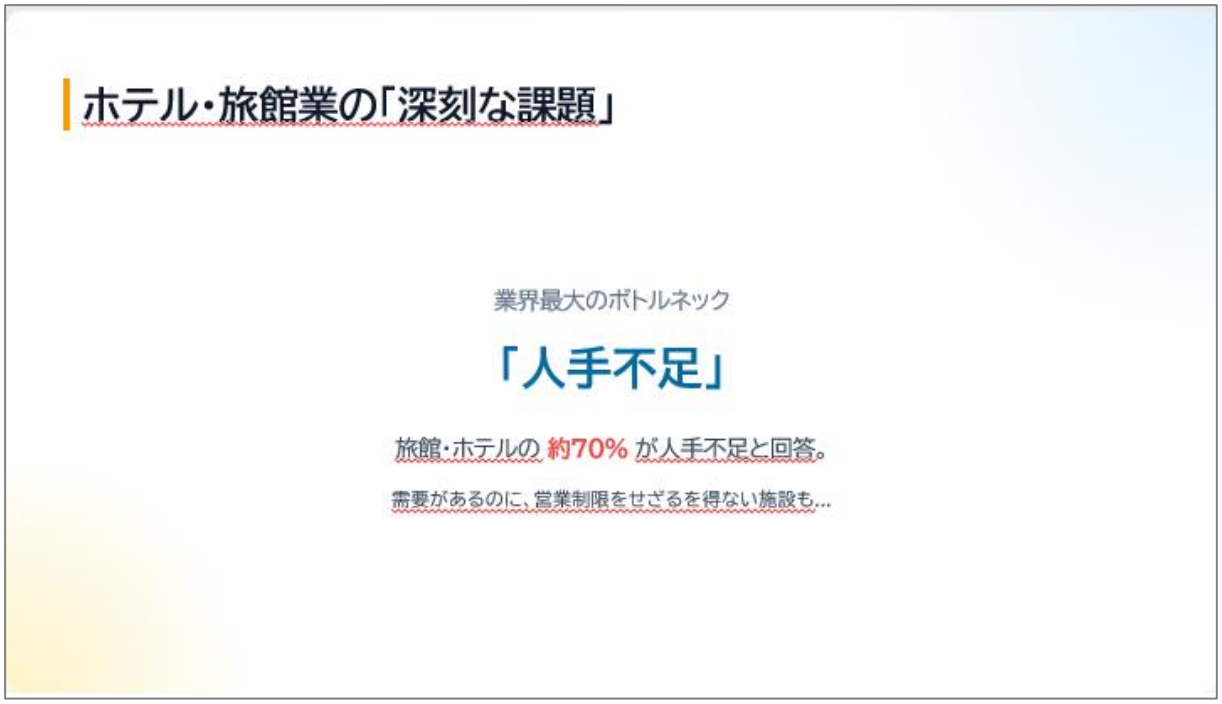
せっかく来てもらったのに、お金を落としてもらえず、すぐに帰ってしまう。この課題を解決することが、山口県の経済成長につながります。

【Section 3：観光業のリアルな課題と IT の力】（5 分 00 秒）



（スライド 9 表示：おもてなしの裏側）

さて、今から話すのは、皆さんにとってもっと身近で、将来の進路を考える上で重要な話かもしれません。観光を支える「おもてなし」の裏側、**ホテル・旅館業のリアルな課題**です。



（スライド 10 表示：課題：深刻な「人手不足」）

皆さん、ホテルや旅館で働くことにどんなイメージを持っていますか？

「楽しそう」「人と話すのが好き」…もちろんそれも大切ですが、実は今、観光業界は「人手不足」が超深刻です。

なんと、旅館・ホテルの約 7 割が「人が足りない！」と答えています。

コロナ禍が終わってお客さんが戻ってきても、働く人がいない。どうなるか？

「営業制限」といって、本来 100 室あるうちの 20 室は閉めておく、とか、週末だけ営業を休む、という施設が増えてしまっています。これでは稼げるチャンスを逃してしまいますよね。



（スライド 11 表示：課題解決に必要なこと）

この課題を解決するには、どうすればいいでしょう？

昔は「ベテランの勘」で全てが回っていました。

「この時期は団体客が多いから、こういう料理を仕入れておこう」とか。

でも、もうそれは通用しません。

これからは「データ」が必須です。

- **なぜ泊まらない？** → 競合のホテルと比べて何が足りないか、SNS の口コミから分析する。
- **なぜ周遊しない？** → 観光客のスマホの動きのデータを見て、どの道でどこへ行っているかを分析する。

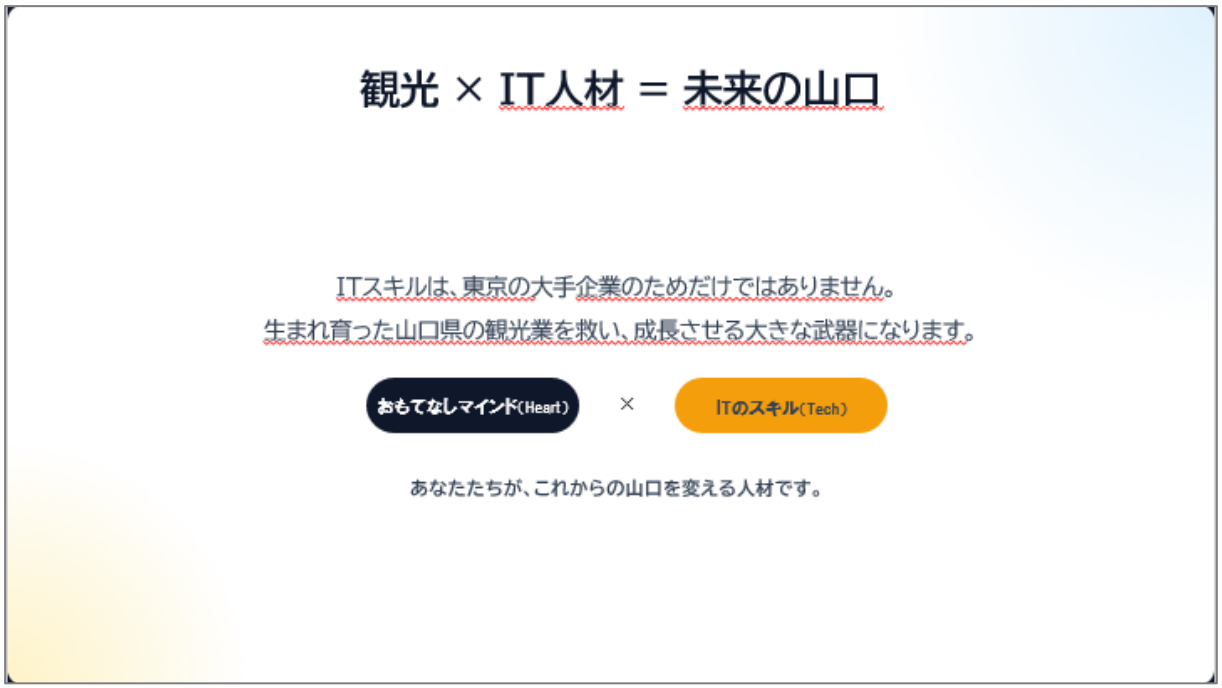
「勘」ではなく「データ」で、ターゲットに刺さる具体的な PR やプランを考える。これが、今の観光業で一番求められていることです。



（スライド 12 表示：なぜ IT 人材が地方にこそ必要なのか）

勘の良い皆さんはもうお気づきですよね。

深刻な人手不足を補い、膨大なデータを活用するには、「IT の力（DX）」が不可欠です。



（スライド 13 表示：IT 人材が「地方の観光業」に求められる理由）

これが今日の結論です。

観光業の課題はたくさんありますが、IT はそれらを解決する武器になります。

- フロントの**人手不足** → **自動チェックイン機**や**清掃ロボット**でカバー。
- **データ分析ができない** → **AI による需要予測**や**顧客データ分析**ツールを導入。
- **効果的な PR ができない** → **Web マーケティング**や**多言語対応サイト**を作る。

特に地方には、まだ IT 化が進んでいない中小のホテルや観光施設がたくさんあります。皆さんがこれから身につける IT スキルは、東京や都会の企業だけでなく、**生まれ育った山口県の観光業を直接、救い、成長させる力**になるんです。

観光業は「IT の知識」と「人を喜ばせたいという気持ち」が直結する、とてもやりがいのある仕事です。

【まとめと質疑応答】(3 分 00 秒)

今日は「観光業の未来」という話でしたが、これは「IT の未来」とイコールです。

皆さんがもし、

- 「地元山口が好きだ」
- 「多くの人を喜ばせたい」
- 「そして、デジタルや IT に興味がある」
  …という気持ちがあるなら、ぜひ観光と IT の分野で活躍することを真剣に考えてみてください。

観光という「ソフト」と、IT という「ハード」を繋げる人材。それこそが、これからの山口が一番求めている人材です。



(スライド 14 表示:ご清聴ありがとうございました)

ご清聴ありがとうございました。
この話を聞いて、何か質問したいこと、疑問に思ったこと、将来について不安に感じることなど、何でも構いません。この機会に、ぜひ質問をしてみてください!
(質疑応答へ)

7－3.担当教員所感

＜文理融合への関心と実務スキルの習得＞

学生は、単なる事務職（従来のエクセル操作等）の枠を超え、「文理融合型」の人材として、データを活用し課題を解決する能力に高い関心を示している,。

①課題解決への意欲

社会や企業の課題を見つけ出し、解決策を提案するプロセスを学びたいというニーズがある。

②実社会との繋がり

観光業などの具体的な業界データを扱い、その戦略を立てるような実践的な学びに魅力を感じている。

＜先端技術（AI）の日常的な活用と応用＞

学生は、生成 AI（ChatGPT や Gemini など）を日常的に使い始めている「デジタルネイティブ」世代であり、それらを「業務でどう活かせるか。」という一歩踏み込んだ活用法を求めている,。

①未知の体験への期待

高校までの授業では体験できなかった「新しいことができるようになること」自体が、強い入学動機（ニーズ）となっている。

②ツール操作への積極性

授業体験ワークショップにおける学生の反応から、受動的な講義よりも、実際にパソコンを使い、未知のツール（RESAS 等）を操作して自分なりの発見をする体験へのニーズが非常に高いことが確認できた,。

＜学校側のシーズ（提供できる教育資源と強み）＞

本校の最大のシーズは、ガチガチのプログラミング（言語習得）ではなく、ノーコード・ローコードツール（kintone、Power Query 等）を活用して、文系学生でも理系的な課題解決ができる教育環境を提供することにある。

①技術の民主化

複雑なコードを書かなくても、AI や既存ツールを組み合わせてシステムやアプリを構築できる人材を育成する。

②官民データ（RESAS 等）を活用した分析教育

地域経済分析システム（RESAS）などの公的なビッグデータを活用し、客観的な根拠に基づいた戦略立案を教えるノウハウを有している。

③データの可視化技術
　データを加工し、グラフやマップとして可視化するスキル（Excel 関数、統計ツール、Power シリーズ等）を段階的に指導する体制が整っている。

④2 年間で段階的に引き上げる教育課程
　1 年目（基礎）：データの取り方や加工・可視化の基礎知識を習得する。
　2年目（実践）：自ら企業の課題を見つけ、データを用いて解決策を提案する実践フェーズへと移行する。

＜学生の反応と教員から見た課題及び改善策＞

体験授業における学生の反応（ポジティブな側面）

①前のめりな姿勢
　自分の手を動かして調べる時間は非常に集中しており、「自分なりの発見」があった際に保護者と共有するなどの様子が見られた。

②予測力の高さ
　ツール操作に慣れていなくても、デジタルネイティブとしての感覚で「こうかな？」と予測しながら進める能力がある。

③目的意識の共有
　山口県内の外国人宿泊者数の推移など、具体的な数値やゴール（結論）を示せば、意欲的に取り組むことが可能である。

教員が直面した課題（ネガティブ・懸念点）

①知識ゼロからのスタート
　RESAS という言葉さえ知らない高校生に対し、どこまで専門的な内容を伝えるかという難しさがある。

②グループワークの難しさ
　初対面の学生同士ではコミュニケーションの盛り上がりに欠け、主体的な議論まで誘導するのが困難であった。

③理論と操作のギャップ
　講義形式の時間は「何を言っているんだろう」と困惑している表情も見受けられた。

＜今後の展望＞

①データの加工・可視化スキルの強化

学生が RESAS で「既に可視化されたデータ」を見るだけでなく、企業が持つ「生のデータ」を自ら加工し、意味のある形に変える技術（データクレンジングや統計知識）を重視していく。

②コミュニケーション・プロセスの設計

入学後のクラス編成を経て、信頼関係が構築された段階で本格的な PBL（課題解決型学習）を導入する。単に話し合うだけでなく、「データを共通言語にする」ことで、論理的な解決策を見出す流れをスムーズに構築する。

③企業のニーズとの合致

企業が絶えず進めている「業務効率化」や「DX 推進」に対し、本校が育てる「AI やノーコードを使いこなす文理融合人材」をマッチングさせることで、卒業後の高い就職満足度を目指す。

＜まとめ＞

学生は「自分たちが使える最新の武器（AI やデータ）」を求めており、学校側は「それを実現するツール（ノーコード等）と実践の場（PBL）」をシーズとして提供できる。今後は、授業体験ワークショップで見えた「実技への熱量」を維持しつつ、不足している「基礎理論」をいかに飽きさせずに定着させるかが、教育の質を左右する鍵と考える。

8.総評

2025 年 12 月 6 日及び 13 日に実施された PBL 授業体験ワークショップには、入学予定者やオープンキャンパス参加者を含む 15 名の高校生が参加した。この授業体験での学生の反応や教員の知見を抽出することで、今後のカリキュラムの魅力向上と、地域社会・企業との連携を深めるための指針を提示する。

1. アンケート調査に基づく事実と分析

本ワークショップ後のアンケートからは、地方都市における IT 教育の可能性と課題が具体的な数値として現れている。

①IT への関心と情熱の充足

参加者の約 87%(15 名中 13 名)が IT 分野に興味を持っており、体験後には全員が「授業に興味を持った」と回答した。特に RESAS を用いたデータ分析に対し、「面白い」、「もっと使ってみたい」という前向きな自由記述が目立つ。

②地元就職への潜在的意識

参加者の約 73%(11 名)が将来的に地元での進学・就業を肯定的に捉えている。就職先選定において最も重視されるのは「働きやすさ(13 名)」、次いで「やりがい(9 名)」であり、IT を活用した業務効率化(DX)が、学生の求める労働環境の実現に寄与することを示唆している。

•③「心理的障壁」という課題

高い関心の裏で、個別ヒアリングでは「機械音痴なのでついていけるか不安」、「会話が苦手でも大丈夫か」といった切実な声が上がっている。また、実習中に「積極的に発言できなかった」と回答した学生が 10 名に上り、技術習得以前のコミュニケーション支援が不可欠であることが判明した。

2. 今後の方向性提示

本事業の目的である「地域中小企業を支える IT 人材の育成」に向け、今後の方向性を以下の 3 つにまとめる。

①「自己効力感」を醸成するノーコード・カリキュラムの確立

アンケートで見られた「機械音痴」への不安を払拭するため、複雑なコードを書かずに成果を出せるノーコード・ローコードツール(kintone、Power Query 等)を入り口とする。学生が「自分でもアプリが作れた」、「データで課題を見つけた」という成功体験を早期に積むことで、IT への苦手意識を「武器を使いこなす自信」へと転換させる指導を強化する。

②「データを共通言語」とした協働的コミュニケーションの設計

ワークショップで課題となったグループワークの活性化に対し、「客観的データ(RESAS 等)」を議

論の軸に据える手法を採用する。自由記述にもあった「情報の信憑性がわかるようになる」という気づきを活かし、個人の感覚ではなく、エビデンスに基づいた意見交換を行うことで、コミュニケーションに自信がない学生でも主体的に参加できる PBL モデルを構築する。

③地域産業の「おもてなしの裏側」を DX で支えるキャリア教育

山口県の強みである観光業をモデルケースとし、「人手不足（約 7 割の施設が直面）」というリアルな社会課題を IT の力で解決するシナリオを軸とする。学生が重視する「やりがい」と、企業が求める「生産性向上」を、AI 予測や自動化ツールの活用という具体的な技術で結びつける。これにより、卒業後に地域中小企業の「IT 担当者」として活躍する明確なキャリアビジョンを提示し、地域への定着を促進する。

3. まとめ

本事業が目指すモデルは、単に IT スキルを教えるものではなく、学生の「地元で働きたいが、自分の能力が通用するか不安」という心理に寄り添い、IT という強力なツールを与えることでその背中を押すものである。今回のワークショップで実証された「実技への熱量」と「データ活用への興味」を核に、企業との連携をさらに深め、2030 年の IT 人材不足を解消する「山口発の IT 担当者育成・採用促進モデル」を社会に実装していく。

文部科学省委託事業
令和 7 年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」
「地域中小企業と連携による IT 担当者育成・採用促進モデル開発と普及推進事業」

連携高校・学校体験会　開発 PBL 体験実証講座
アンケート調査報告書

令和 8 年 2 月
学校法人 YIC 学院
〒754-0021 山口県山口市小郡黄金町 2 番 24 号

●本書の内容を無断で転記、掲載することは禁じます。